

校名の由来と建学の精神

福山誠之館は時の江戸幕府老中首座阿部正弘公が開国に際し、将来を担う人材育成のために建学を決意され、1855（安政2年）1月16日開校し、2005年に150年を迎えました。

誠之館の校名は中国の孔子の孫にあたる子思が書いた『中庸』の一節、「誠は、天の道なり。これを誠にするは、人の道なり」に由来します。

また、博くこれを学び、審(ツマビラカ)にこれを問い、慎しみてこれを思い、明らかにこれを弁じ、篤くこれを行う。「博学、審問、慎思、明辨、篤行」という一節があります。すなわち、何事でも広く学んで知識をひろめ、詳しく綿密に質問し、慎重にわが身について考え、明確に分析して判断し、丁寧に行き届いた実行をする。という意味です。

阿部正弘公は開国後の激動の時代をリードする人材を育成するために誠之館をつくりました。そこで学ぶ誠之館生にこれを期待したのでしょう。

この伝統は今も受け継がれています。福山誠之館高校は激動の21世紀の社会を担うリーダーとなる人材を育成することが目的の学校です。

なお、誠之講堂のステージ頭上にある扁額に書かれている「誠之館」の文字は水戸烈公（徳川斉昭公）すなわち徳川15代將軍徳川慶喜のお父さんにあたる人が書いた文字です。

「中庸」章句 第20章

誠者、天之道也。誠之者、人之道也。
誠者、不勉而中、不思而得、従容中道。聖人也。
誠之者、択善而固執之者也。
博学之、審問之、慎思之、明弁之、篤行之、
有弗学 学之、弗能弗措也。有弗問 問之、弗知弗措也。
有弗思 思之、弗得弗措也。有弗弁 弁之、弗明弗措也。
有弗行 行之、弗篤弗措也。
人一能之、己百之。人十能之、己千之。
果能此道矣、雖愚必明、雖柔必強。

【書き下し文】

まこと てん みち まこと ひと みち
誠は、天の道なり。之を誠にするは、人の道なり。
まこと つと あ おも え しょうよう みち あ せいじん
誠は、勉めずして中たり、思はずして得、従容として道に中る。聖人なり。
まこと ぜん えら かた と もの
之を誠にする者は、善を択んで固く之を執る者なり。
ひろ まな つまびらか と つつ おも あき べん あつ おこな
博く之を学び、審に之を問ひ、慎しんで之を思ひ、明らかに之を弁じ、篤く之を行ふ。
まな まな よ お
学ばざる有れば、之を学び、能くせざれば措かざるなり。
と し お
問わざる有れば、之を問ひ、知らざれば措かざるなり。
おも おも え お
思わざる有れば、之を思ひ、得ざれば措かざるなり。
べん べん あき お
弁ぜざる有れば、之を弁じ、明らかにせざれば措かざるなり。
おこな おこな あつ お
行はざる有れば、之を行ひ、篤くせざれば措かざるなり。
ひとひと よ おのれ ひやく
人一たびにして之を能くすれば、己之を百たびす。
ひとと よ おのれ せん
人十たびにして之を能くすれば、己之を千たびす。
は こ みち よ ぐ いえど かなら めい じゅう いえど かなら きょう
果たして此の道を能くすれば、愚と雖も必ず明、柔と雖も必ず強なり。